

第5期吹田市情報化推進計画策定

#安心×デジタル
#市民に分かりやすく伝える
#吹田推し

DATA

● 主な連携先・メンバー

吹田市情報政策室／関西大学文学部柴田ゼミ及び文学部「ICT ベーシックス」(8組)有志の学生

● 活動地域

吹田市役所

● 活動期間

2023年8月～2024年3月

● 活動資金

吹田市



ワーキンググループ発足当初の様子(2023.8.8)

目的

吹田市総合計画を補完・具体化する吹田市情報化計画に、次代を担う学生たちの意見を反映させることで、より市民に分かりやすく、誰もが享受できる市政を実現する。

活動内容

活動は基本的に月1回～2回、水曜日の午後1～2時間程度、吹田市役所にて行っている。第5期吹田市情報化推進計画の策定にかかるワーキンググループとして位置づけられ、吹田市が提示する素案に対して、グループワークでブレインストーミングやディスカッションを実施した。市民目線、若者ならではの価値観、デジタルネイティブ世代の常識に基づいた意見を提示し、市民に分かりやすく、誰ひとり取り残さない市政実現に向けて、第5期吹田市情報化推進計画がより良いものとなるよう寄与している。さらには、吹

連携にいたる経緯

第2期から第4期までの吹田市情報化推進計画に、柴田が情報化推進懇談会の座長として関わったことをきっかけに、柴田が担当する授業の受講生の紹介依頼があった。そこで、ゼミの3年生をリーダーに、1年次配当の総合人文スキル科目「ICT ベーシックス」(8組)から有志を募った。

田市のあるべき姿を描くミッション(デジタル化の加速などの外部環境に左右されない長期目標)と、ICT活用・DXによって目指す姿であるビジョン(ミッションを達成するための中期目標)の素案、キーワードを作成し、情報化推進懇談会に進言している。また、吹田市が主催する各種会議への出席や、市役所の仕事内容を紹介していただくなど、市政の現状把握をするという意味では市役所インターンシップの側面も有している。



情報化推進懇談会への提言を
まとめる様子(2023.12.25)

後藤吹田市長と協議後の
記念撮影(2024.1.15)



活動の成果

- ▶ 市民に分かりやすい、市民に寄り添った情報化計画の立案のためのキャッチコピーの考案。
- ▶ 学生たちが市役所業務の現状を肌で感じる事ができたこと。
- ▶ 学生たちが活動の最後にトップである吹田市長をメンバーとした会議体に上程すること。

今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶ 情報化推進計画実施後の定期的な評価への学生の参画。
- ▶ 学生の協力によるデジタルデバйдの解消。
- ▶ 生成AIの利用による市役所の働き方改革。

連携先からの一言

行政が作成する計画に若い方の意見を反映させるというのが課題の一つとなっていました。学生の力をお借りし、様々な意見やアイデアを頂戴できたことは、今回の計画策定の大きなポイントとなりました。

(吹田市情報政策室)

文学部 教授 柴田 — Shibata Hajime



専門は、教育のデジタル化とデータサイエンス。現在、生成AIの教育への応用について研究を行っている。

